

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100034		
法人名	東洋ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム燦むつみ(Aユニット)		
所在地	岡崎市赤浜町字寺前19-1		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2392100034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、家庭的な雰囲気の中で安心して生活をして頂けるように、本人様の健康・安全に配慮しつつ、ご希望やペースを尊重した介護を行っています。入居時にご本人様・ご家族様から出来るだけ多くの情報を頂き、入居後のご要望について伺います。入居後も、ご家族様への報告・ご相談等でコミュニケーションを多くとるようにし、ご家族様にも常に、入居者様の現状とそれに対するホームの対応を把握していただく事、またSNSの活用により普段の生活の様子をお伝えしていく事で安心して頂けるように努めています。
また、地域密着型施設として、地域に根差した施設でありますように、町内の活動・地域行事への参加を積極的に行い、地域の方々とのつながりを深めていきます。コロナ禍により対面での交流が難しくなっており、掲示物や余暇活動の成果・作品を提供する場も活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ禍により、電話ヒアリングでの調査を実施した】
コロナ禍以前より、衛生管理を徹底している。感染者が出た時のシミュレーションを行い、ユニットをゾーニングするなどの対処方法を事前確認し、万が一に備えた訓練が実際の感染者が発生した時に活かした。コロナ発生から3年が経ち、これまでと同じ支援はできないものの、職員が「お互い様」の気持ちで業務に就いている。
利用者と家族との関係が途切れないよう、家族の意向を聞き、利用者が健康に過ごせるように支援している。外出や外食の制限中であり、少しでも非日常を味わえるよう、畑で採れたサツマイモを食べたり、梅シロップを皆で作ったりと、刺激のある活動を取り入れて充実した暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を提示し周知しています。年度スローガン「安心安全 毎日を笑顔で過ごせる家」を指針として実践しました。	入職時に理念や方針を説明し、職員が足並みを揃えて支援できるようにしている。年度スローガンは、職員が主体となって決めており、理念と共に日常の支援の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動は総代様より情報提供をして頂いておりますが、コロナ禍により日々情勢が変化し様々な行事が中止または縮小されており、交流が出来ていない。	地域の行事が中止となり、地域住民と顔を合わせる機会は減っている。利用者が参加できる行事が無く、交流する場が持ていないことを、地域の人達が気にかけてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では制度や介護、認知症に関する情報の提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域総代、地域包括支援センターの方、民生委員、介護相談員の方に参加いただき、ホームの現状についての現状報告をしています。	開催方法に関してのアンケートで意見をもらい、それも参考にし、感染状況をみながら、対面開催・書面開催を決めている。書面開催をするときにも意見をもらい、その改善点等を回答して報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方との連携を密にとり、地域のイベントなどに可能な範囲で出来る事を相談して協力している。	コロナ禍以前のように、積極的に行政に出向いて話をすることはできないが、法人として市の取組みに協力している。地域包括支援センターとも連携して、認知症理解の様々な活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束禁止委員会を開催し、協議を行う。社内研修に参加し、その内容をスタッフ会議で共有し勉強会を行う。各扉のセンサーや離床センサーを活用して転倒防止に努めている。	身体拘束をしないことを前提に支援している。玄関は、利用者の安全確保を優先し、市の介護保健課への相談や家族の理解を得た上で、施錠することとしている。身体拘束にあたる行為かどうか不明な場合は、職員で検討し、その都度明確にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の「虐待防止・身体拘束禁止・権利擁護」に参加し、出席できなかったスタッフに向けて、スタッフ会議内での内容報告及び検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年9月に社内研修として権利擁護に関する研修「利用者プライバシー保護に関する研修」を行い、利用者の権利としての制度を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、料金・サービス内容についてご説明し、十分納得して頂いた上で契約しております。契約時にも十分な時間をかけてご説明し、入居後も不明点について、気軽に問い合わせが出来るよう配慮と回答をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議だけでなく、普段より個別にコミュニケーションをとるように心掛けています。その中で、意見・要望を出しやすい関係を築けるよう努めています。年一回、無記名アンケートも行っています。	面会制限を継続しているが、家族は理解しており、電話等でコミュニケーションが取れるよう工夫している。法人で実施しているアンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談はもとより普段から話しやすい雰囲気作りに努め、意見や提案を聞くようにしています。	管理者が日常業務の中で職員から意見を聞き、運営に反映させている。意見が出やすい雰囲気作りにも力を入れており、職員が気づいたことは積極的に意見として挙がってくる関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績などを日々把握し、事業所全体のバランスを考え、個々の目標の提示やモチベーション向上の目標に向けて働きやすい職場環境を作れるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で研修を行い、その内容を確実に全社員へ提供しています。自事業所外への研修の機会を一人ひとりの適性を見て、提供することを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会・県グループホーム協議会に参加して、情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初面接時、可能な限り多くの情報を頂き、ご本人の不安・ご要望を可能な限り明確にイメージできるようにしています。常に謙虚な姿勢で接し、安心してお話して頂けるような雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、安心してお話頂ける雰囲気作りに努め、ご家族様の視点からのご本人様の現状をより深く理解できるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様のこれまでの生活歴やお話しされる様子を伺いながら、ご希望の本質を見極めるようにしています。ホームで利用可能な外部サービスについても説明しています(訪問マッサージ・理容など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、可能な方には家事のお手伝いをして頂き、ホーム内での役割を担っていただいています。その他の方においても本人の立場で考え行動し、受容と共感の姿勢を大切に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、家族様に連絡もしくは面会時に状況報告や相談をしています。それにより、ホームとご家族様が同じ方向を向き、ケアができるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの面会や外出について、コロナ禍での制限を世情や他法人、行政にも相談しながらリスク管理のもと、その時の状況に合わせて変化。オンラインでの面会やSNSでの情報発信を行っています。	外出や外部からの訪問を制限している。馴染みの関係継続が難しい状況になっているが、再開に向け、利用者の意向を聞き、地元の神社などへの初詣や思い出の場所へ出かけることなどを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの個性を把握し、食堂・リビングなどでの座席の配置を考慮して良好な関係が築けるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の方々についても、必要に応じて支援を行っています。(ホームで撮影した写真提供・葬儀参列・相談支援など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や日々の関りの中で、各担当者を中心として、ご本人の思いを把握し、毎月一回のケアカンファレンスで話し合いを行っています。	日常会話の中で、利用者の興味があることなどを話題にして、思いを引き出している。把握した利用者の思いは記録に残し、実現に向けて職員間で共有し、一つずつ実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接と入居時にご家族様に情報シートに記入して頂き、本人様には普段の会話を通じて情報収集することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック・食事量・水分摂取量・排泄状況等をはじめとして、入居者様の心身における現状把握は常に行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族様、計画作成担当者、担当スタッフ、看護師、管理者の意見を踏まえて本人様・ご家族様が満足できる介護計画になるように努めます。	家族から、面会時やメールで意見を聞き、利用者の思いや家族の望みを反映した介護計画を作成している。職員の日々の支援の中での気づきも踏まえ、現状の課題を挙げ、より良い介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌に日々記録し、スタッフ間で情報共有を行っています。特に必要な事案に関しては「連絡ノート」「電子カルテのレポート機能」で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況の変化に起因する福祉用具の必要性などは法人内福祉用具事業所と連携しニーズに合った物を確実に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の世情では地域行事が自粛・縮小されており、参加が出来ないため、日々の散歩を行うことで地域とのつながりを感じて頂けるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診1回/月、近隣の医師に協力をお願いしております。必要な方への定期往診やワクチン予防接種などの便宜も図っていただき感謝しています。	かかりつけ医は利用者の希望に沿うようにしている。ホームの協力医は看取りにも理解があり、かかりつけ薬局の薬剤師の協力も得ながら、適切な医療が受けられる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はミーティングに必ず出席し介護職と情報共有し、医療的立場での見解を示しています。また、業務日誌・介護記録にて全スタッフに情報が伝わるようにし、医療機関の受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、ご家族様と定期的に連絡を取り、医師からの情報を早めに得よう心掛けています。退院の目途がつかましたら、ケースワーカーや病棟看護師と連携し早期退院に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を契約時に説明し、終末期に関して、いつでも相談可能なことを伝えていきます。協力医の往診についても可能な場合があり、本人様・ご家族様ともに満足できる看取り介護を目指している。	最後まで見てもらいたいという家族が多く、ホームの方針を伝えた上で、可能な限り対応している。看取り期に入る時には基本的な心構えを再度確認し、職員間でコミュニケーションを取りながら、より良い最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	来年1月の会社全体の社内研修において事故発生時の対応やその後の観察手法についての研修会をスタッフ会議にて共有します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行い、必ず1回は消火器の使い方を学習しています。夜間想定での避難訓練も行います。地域のハザードマップを確認して水害時の避難経路についても学んでいます。	回覧板等で、災害時の地域協力を依頼している。備蓄は地域の避難困難者の受入れにも対応できるよう準備している。避難先となっている小学校で利用者が落ち着いて過ごせるよう、教室を貸し切りを依頼している。	これまで経験したことのない災害が起きたことを想定し、どのように対応したらよいかを考える機会を設け、地域への協力を働き掛けていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「なじみの関係」「家庭的な雰囲気」のもとで人生の大先輩、お客様である入居者様の自尊心が、日々の生活の中で傷つけられる事の無いように慎重に配慮しながら対応しています。	声のかけ方は、利用者との関係性も考慮して使い分けしている。馴れ馴れしくなりすぎないように、利用者との距離感には十分配慮しつつも、家族のような関係で接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望や困りごとが無いのか個別に伺っています。日々の生活の中で、入居者様ご本人に選択して頂く機会を出来るだけ多く提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に合わせた生活を出来る限り送って頂けるようにしています。無理強いをしない事を原則としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に洋服などの選択を楽しめるように支援しています。月に一回の訪問理容を利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、可能な方に食器洗い・拭き上げなどのお手伝いをして頂いています。	朝食と昼食は、湯せん調理品などを活用し、見守りの時間を確保している。夕食は利用者のリクエストに応え、季節の食材も取り入れて職員が手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談しながら、入居者様一人ひとりの一日当たりの食事水分量・食事形態を決定し、記録に残して栄養状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を使用されている方は、外して磨いて頂くよう支援し、自歯の方は磨き残しが無いように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄して頂くように支援しています。	ADLの低下を送らせて、トイレでの排泄の自立が継続できるように支援している。適切な排泄用品を使うことで、利用者自身の負担が軽減されるよう、職員間で情報共有しながら検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂って頂くように支援しています。食事では繊維の多いものを召し上がっていただくように工夫したり、ヨーグルトなどの乳製品も提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を無理強いせず支援しています。入浴時間は日中の時間帯に限定されているが、その中で入居者様のご希望に添えるように努めています。	一人1時間くらいを目安に、入浴の時間を確保している。ゆっくりと入って、職員との会話を楽しむ利用者もいる。1番風呂を希望する利用者などがおり、入浴順は極力利用者の希望に沿うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則的には自由に居室で休んで頂いています。また、夜間の睡眠時間を十分に確保できるように支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にお薬手帳や薬剤情報があり、常に確認ができるようにしています。服薬時は職員2名にて確認し確実に服薬できるようにし、症状に変化を常に観察し、記録に残すよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来る限りの家事などのお手伝いをして頂いています。他入居者との会話やレクリエーションなど、楽しい時間を過ごして頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在のコロナ禍では外出自粛をせざるを得ない。感染リスクの減少と共に安全に安心して外出できるよう検討・支援していきます。	天気の良い日にはホーム周辺を散歩したり、花やおやつを買いに行っている。人混みの多いところへの外出は避け、ホーム内に大きな鳥居と賽銭箱を作り、おみくじを引いて初詣気分を味わってもらうような工夫もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かり・立替をして買い物ができる体制はあるが実際にお金を使う場面はコロナ過の外出自粛によりほとんどありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望やご家族様の同意のもとに、電話や写真入りの手紙でやり取りを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、気持ちの和むよう雰囲気作りを心掛けています。季節の飾り物・ひな人形・七夕・クリスマスツリーなど、季節を感じられる環境になる湯に努めています。	電話ヒアリングのため、見学なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係に配慮し、日々の状況変化に応じた居場所作りを心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に等にご家族様が日用品を持ってこられる際に、ご本人様が安心出来るように愛用の物も併せて持参いただくようお願いしています。	電話ヒアリングのため、見学なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室が分かるように目印になる物を配置するなどの工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100034		
法人名	東洋ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム燦むつみ(Bユニット)		
所在地	岡崎市赤浜町字寺前19-1		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2392100034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が、家庭的な雰囲気の中で安心して生活をして頂けるように、本人様の健康・安全に配慮しつつ、ご希望やペースを尊重した介護を行っています。入居時にご本人様・ご家族様から出来るだけ多くの情報を頂き、入居後のご要望について伺います。入居後も、ご家族様への報告・ご相談等でコミュニケーションを多くとるようにし、ご家族様にも常に、入居者様の現状とそれに対するホームの対応を把握していただく事、またSNSの活用により普段の生活の様子をお伝えしていく事で安心して頂けるように努めています。

また、地域密着型施設として、地域に根差した施設でありますように、町内の活動・地域行事への参加を積極的に行い、地域の方々とのつながりを深めていきます。コロナ禍により対面での交流が難しくな

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を提示し周知しています。年度スローガン「安心安全 毎日を笑顔で過ごせる家」を指針として実践しました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動は総代様より情報提供をして頂いておりますが、コロナ禍により日々情勢が変化し様々な行事が中止または縮小されており、交流が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では制度や介護、認知症に関する情報の提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域総代、地域包括支援センターの方、民生委員、介護相談員の方に参加いただき、ホームの現状についての現状報告をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方との連携を密にとり、地域のイベントなどに可能な範囲で出来る事を相談して協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束禁止委員会を開催し、協議行う。社内研修に参加し、その内容をスタッフ会議で共有し勉強会を行う。各扉のセンサーや離床センサーを活用して転倒防止に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の「虐待防止・身体拘束禁止・権利擁護」に参加し、出席できなかったスタッフに向けて、スタッフ会議内での内容報告及び検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年9月に社内研修として権利擁護に関する研修「利用者プライバシー保護に関する研修」を行い、利用者の権利としての制度を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、料金・サービス内容についてご説明し、十分納得して頂いた上で契約しております。契約時にも十分な時間をかけてご説明し、入居後も不明点について、気軽に問い合わせが出来るよう配慮と回答をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議だけでなく、普段より個別にコミュニケーションをとるように心掛けています。その中で、意見・要望を出しやすい関係を築けるよう努めています。年一回、無記名アンケートも行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談はもとより普段から話しやすい雰囲気作りに努め、意見や提案を聞くようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績などを日々把握し、事業所全体のバランスを考え、個々の目標の提示やモチベーション向上の目標に向けて働きやすい職場環境を作れるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で研修を行い、その内容を確実に全社員へ提供しています。自事業所外への研修の機会を一人ひとりの適性を見て、提供することを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会・県グループホーム協議会に参加して、情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初面接時、可能な限り多くの情報を頂き、ご本人の不安・ご要望を可能な限り明確にイメージできるようにしています。常に謙虚な姿勢で接し、安心してお話して頂けるような雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、安心してお話頂ける雰囲気作りに努め、ご家族様の視点からのご本人様の現状をより深く理解できるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族様のこれまでの生活歴やお話しされる様子を伺いながら、ご希望の本質を見極めるようにしています。ホームで利用可能な外部サービスについても説明しています(訪問マッサージ・理容など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、可能な方には家事のお手伝いをして頂き、ホーム内での役割を担っていただいています。その他の方においても本人の立場で考え行動し、受容と共感の姿勢を大切に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、家族様に連絡もしくは面会時に状況報告や相談をしています。それにより、ホームとご家族様が同じ方向を向き、ケアができるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの面会や外出について、コロナ禍での制限を世情や他法人、行政にも相談しながらリスク管理のもと、その時の状況に合わせて変化。オンラインでの面会やSNSでの情報発信を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの個性を把握し、食堂・リビングなどでの座席の配置を考慮して良好な関係が築けるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の方々についても、必要に応じて支援を行っています。(ホームで撮影した写真提供・葬儀参列・相談支援など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や日々の関りの中で、各担当者を中心として、ご本人の思いを把握し、毎月一回のケアカンファレンスで話し合いを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接と入居時にご家族様に情報シートに記入して頂き、本人様には普段の会話を通じて情報収集することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック・食事量・水分摂取量・排泄状況等をはじめとして、入居者様の心身における現状把握は常に行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族様、計画作成担当者、担当スタッフ、看護師、管理者の意見を踏まえて本人様・ご家族様が満足できる介護計画になるように努めます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌に日々記録し、スタッフ間で情報共有を行っています。特に必要な事案に関しては「連絡ノート」「電子カルテのレポート機能」で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況の変化に起因する福祉用具の必要性などは法人内福祉用具事業所と連携しニーズに合った物を確実に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の世情では地域行事が自粛・縮小されており、参加が出来ないため、日々の散歩を行うことで地域とのつながりを感じて頂けるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診1回/月、近隣の医師に協力をお願いしております。必要な方への定期往診やワクチン予防接種などの便宜も図っていただき感謝しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はミーティングに必ず出席し介護職と情報共有し、医療的立場での見解を示しています。また、業務日誌・介護記録にて全スタッフに情報が伝わるようにし、医療機関の受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、ご家族様と定期的に連絡を取り、医師からの情報を早めに得るよう心掛けています。退院の目途がつかましたら、ケースワーカーや病棟看護師と連携し早期退院に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を契約時に説明し、終末期に関して、いつでも相談可能なことを伝えています。協力医の往診についても可能な場合があり、本人様・ご家族様ともに満足できる看取り介護を目指している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	来年1月の会社全体の社内研修において事故発生時の対応やその後の観察手法についての研修会をスタッフ会議にて共有します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行い、必ず1回は消火器の使い方を学習しています。夜間想定での避難訓練も行います。地域のハザードマップを確認して水害時の避難経路についても学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「なじみの関係」「家庭的な雰囲気」のもとで人生の大先輩、お客様である入居者様の自尊心が、日々の生活の中で傷つけられる事の無いように慎重に配慮しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望や困りごとが無いのか個別に伺っています。日々の生活の中で、入居者様ご本人に選択して頂く機会を出来るだけ多く提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に合わせた生活を出来る限り送って頂けるようにしています。無理強いをしない事を原則としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に洋服などの選択を楽しめるように支援しています。月に一回の訪問理容を利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、可能な方に食器洗い・拭き上げなどのお手伝いをして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談しながら、入居者様一人ひとりの一日当たりの食事水分量・食事形態を決定し、記録に残して栄養状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を使用されている方は、外して磨いて頂くよう支援し、自歯の方は磨き残しが無いように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄して頂くように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂って頂くように支援しています。食事では繊維の多いものを召し上がっていただくように工夫したり、ヨーグルトなどの乳製品も提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を無理強いせず支援しています。入浴時間は日中の時間帯に限定されているが、その中で入居者様のご希望に添えるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則的には自由に居室で休んで頂いています。また、夜間の睡眠時間を十分に確保できるように支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にお薬手帳や薬剤情報があり、常に確認ができるようにしています。服薬時は職員2名にて確認し確実に服薬できるようにし、症状に変化を常に観察し、記録に残すよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来る限りの家事などのお手伝いをして頂いています。他入居者との会話やレクリエーションなど、楽しい時間を過ごして頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在のコロナ禍では外出自粛をせざるを得ない。感染リスクの減少と共に安全に安心して外出できるよう検討・支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かり・立替をして買い物ができる体制はあるが実際にお金を使う場面はコロナ過の外出自粛によりほとんどありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望やご家族様の同意のもとに、電話や写真入りの手紙でやり取りを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、気持ちの和むよう雰囲気作りを心掛けています。季節の飾り物・ひな人形・七夕・クリスマスツリーなど、季節を感じられる環境になる湯に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係に配慮し、日々の状況変化に応じた居場所作りを心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に等にご家族様が日用品を持ってこられる際に、ご本人様が安心出来るように愛用の物も併せて持参いただくようお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室が分かるように目印になる物を配置するなどの工夫をしています。		